

## ATGG の Photo World No.4

(PG-17007:22/06/17受理)

今年の関東地方の梅雨入りは6月7日。そこそこ平年並みでしたけれど、6月中旬まではあまり雨も降らず、アルキ好き、写真好きの私にとってはなかなか良い月でした。とは言いながらも寄る年波でか、出歩く機会はだんだん少なくなって、写真撮りのチャンスも減ってきてしまっています。そんな中から、今月のトピックスを纏めてみました。

今日の話題の中心は植物、それもラン科の仲間です。そう言えば大手前時代の和気先生は大のラン科植物好きで、ご自宅にはエビネやクマガイソウ、キンランにギンランにナンチャラカンチャラ、いっぱい植えておられましたね。懐かしく思い出します。



たまたま6月の上旬に、富士山麓の林の中を散策する機会があり、出かけてみたらラン科植物にいっぱい出会いました。その時の写真を紹介しましょう。

まずはササバギンラン。ギンランによく似ているものの、ご覧のように葉がギンランに比べて細長く、背丈も30cmぐらいまで伸びるのが特徴です。このあたりではギンランも近くに生えていて、見比べができました。このランは園芸家に人気があり、盗掘されることが多くて、今やかなり数が減ってきているそうです。



続いてスズムシソウ。これ、実は見るのは初めてでした。花の色や形がスズムシの翅に似ているのが名前の由来だそうで、言われて見ればなるほど、と頷けます。きれい、とはちょっと言い難いものの、上品で素敵な花です。この花も園芸家たちには大人気だそうで、盗掘を防ぐために、都道府県によっては絶滅危惧種に指定して保護している所もあるそうです。これの近縁種としてはクモキリソウ、ジガバチソウなどが知られていますが、どれも花の姿形から名づけられたものらしいです。



それからコアツモリソウ。アツモリソウなら聞いたことも見たこともあります。コアツモリソウとは聞き初め、見初め。アツモリソウは高さ40cmにもなる、葉も花も雄大で見栄えのするランなのに比べ、コアツモリソウとなるとご覧の通り、背の高さはせいぜい10cm、小さい、小さい。しかも花は俯いててなかなか写真に撮らせてくれず、苦労しました。でも、これ又上品で謙虚、好感のもてる植物でした。こう並べてみると、ホントにラン科植物って、上品で端正で素敵なんだねえ。



と、こんな感じで今日のランづくしは終わりとし、最後に恒例(?)の「お登り」写真。「お登り」とは、のぼる、つまり「くだらない」と言う意味ですが、今日のお登り写真はこれ。江戸川区の一之江あたりを歩いてて見つけたものです。カエルに関係するものがあると和気先生のことを思い出して、つついシャッターを切っちゃうのです。ここに出て来る「財成本社」とは、ここ一之江に本拠がある不動産会社だそうで、「住みかえる、建てかえる、買いかえる、なら我が社へどうぞ」と言うことらしいです。これに限らず、あちらこちらでカエル君は見かけますので、そのうち、「カエル特集号」でも作るかな?

と思ったりしています。ご期待(?)下さい。では、また、来月。

皆様からのお便りをお待ちしております。下記アドレスへどうぞ。 [haradah@rapid.ocn.ne.jp](mailto:haradah@rapid.ocn.ne.jp)

(2017年6月22日 大手前4回生 原田浩 記)